

イエバエ

分類 双翅目 短角亜目 イエバエ科

学名 *Musca domestica*

英名 House fly



■解説¹⁾

本種は、衛生害虫として世界で最も普遍的なハエである。世界中、ヒトの住んでいるところならば、どのような場所でも生息しているといわれているが、自然環境よりも、ヒトの密集している都市型の環境の方が生息密度も高い。成虫はミルクや果汁のような糖分を含む食物に好んで集まる。雌は幼虫の食物となる動物糞やごみの中の食物残渣に産卵する。産卵場所として割れ目などを選び、産卵管を挿入して、ときには全卵を、また一般には歩きながら場所を変えて数個から10数個を分散して産卵する。

■体長

卵 : 長径約1mm²⁾
幼虫 : 約2mm(1齢)、約4mm(2齢)、
約11mm(3齢)²⁾
蛹 : -
成虫 : 4~8mm²⁾

■産卵数

産卵数/生涯 : 平均450個⁴⁾
産卵数/1回 : 平均120個¹⁾

■ライフサイクル

卵 : 72~96時間(10℃)²⁾
12~24時間(25℃)³⁾
8~12時間(30℃)³⁾
幼虫 : 約1~1.5日(1齢)、1日(2齢)⁴⁾
3~8日(3齢)⁴⁾
蛹 : 3~5日(35℃)⁴⁾
成虫 : 25~50日(25℃)⁴⁾

■発育零点(発育停止温度)

11℃¹⁾

【参考文献】

- 1) 武衛和雄・松崎沙和子 : 都市害虫百科, p236, 朝倉書店 (1993)
- 2) 和田義人・篠永哲・田中生男 : ハエ・蚊とその防虫, p174, (財)日本環境衛生センター (1990)
- 3) 林晃史・篠永哲 : ハエ生態と防除一, p210, 文永堂 (1979)
- 4) 厚生省生活衛生局水道環境部監修 : 原色ペストコントロール図説第Ⅲ集, p83, (社)日本ペストコントロール協会 (1990)